

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨタカローラ愛知株式会社 本社 新築工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市東区泉一丁目601番、602番、632番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年12月2日
敷地面積	2,032 m ²	作成者	
建築面積	1,852 m ²	確認日	2020年12月3日
延床面積	8,294 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	☆: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.6	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
周辺環境に配慮した外観デザインとした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
快適に業務が行える環境づくり、仕上材、空調、照度とした。	余裕ある空間づくりとした。	緑地帯や底の設置により敷地内利用者の暑熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
ODPが0の冷媒を使用	床材に耐久性の高いタイルを使用することで、床材の塗り替え等の環境負荷を低減	施設内の照明をタイマー式とする等、敷地周辺への光害対策に配慮している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築物環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)トヨタカローラ愛知株式会社 本社 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.6
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.109043548	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010904355	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.054521774	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 2.6
2. 自然共生	評価点 = 2.3
3. 循環型社会	評価点 = 2.8

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。